JA通信　Public Relations Magazine

ふるさと

4

vol.240
2018

JA秋田ふるさとは、新たな期待を創造します。

臨時総代会全議案原案通り可決

ＪＡ秋田ふるさと合併20周年特別企画

広報誌で振り返る「ふるさと」の20年

いいねをいっぱい届けたい

JA秋田ふるさと

JA通信

ふるさと

April
4
2018

ＪＡ秋田ふるさとは、新たな期待を創造します。

02　目次

04　臨時総代会　全議案原案通り可決

ＪＡ秋田ふるさと合併20周年特別企画

06　**広報誌で振り返る**
「ふるさと」の20年

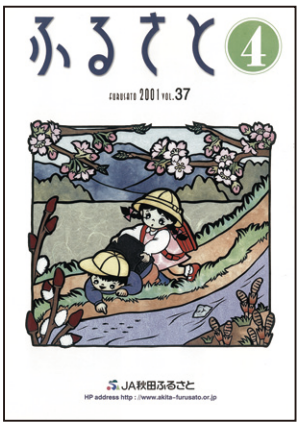
12　ニュース＆トピックス
16　平成30年度新採用職員紹介
18　バラエティコーナー

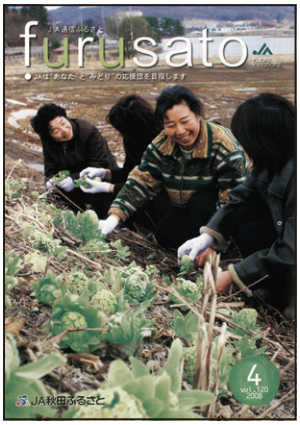
20　組合員のみなさまへ
ＪＡ組合員資格のご確認をお願いいたします。

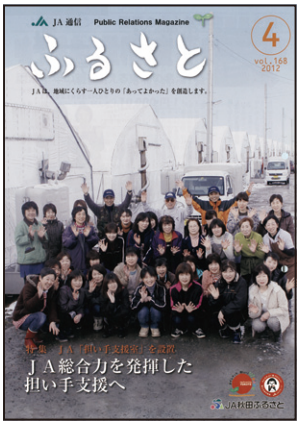
21　機構改革に伴う
本店事業所の番号変更のお知らせ

22　インフォメーション

24　ふるさとの民話「猿と雉の寄合田」
ＪＡの概況







「人が好き　大地が好き　緑が好き」

平成30年、ＪＡ秋田ふるさとは合併20周年を迎えました。

急速に変化を遂げる情勢の中、
農業経営を維持・発展させるため多様な生産者ニーズに対応しつつ、
「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を目指します。
これからも期待をいつも上回ろうという姿勢を継続し、期待を超える価値を
創造していく「ＪＡ秋田ふるさと」の役割を果たしてまいります。

■表紙紹介

歴代の広報誌「ふるさと」

創刊以来、みなさまに親しまれてきたＪＡ秋田ふるさとの広報誌。
読者のみなさまのニーズに応えながら、
これからも地域に、農業に、寄り添う広報誌を届けていきます。

本来のJAのあるべき姿に向け全力

臨時総代会

全議案原案通り可決

ＪＡ秋田ふるさとは３月27日、臨時総代会を秋田ふるさと村ドーム劇場で開き、各地区から選出された総代６００人のうち５３１人（本人出席４３４人、代理人出席３人、書面出席94人）が出席しました。

議案審議に先立ち、執行部一任により議長に齊藤龍平氏（十文字地区）が選任され、議事を進行。慎重審議した結果、上程された７議案と附帯決議がいずれも原案通り可決、承認されました。

小田嶋契組合長は所信の中で、「平成30年度は長年続いた生産調整の見直しの初年度。本年は農協のあるべき姿、本来の生産振興を全力でやる年と考えている。生産者がしっかり米を作っていけるように頑張っていきたい」と述べました。

主題となった「平成30年度事業計画」について、中期３か年計画の３年目を迎える今年度は農業改革や農協改革において常に経営状況や農業情勢に対して遡行した見直しを行い、基本方針をＪＡグループ全体の取り組みとして　**①農業者の所得増大・農業生産の拡大　②組合員の意思反映と運営参画に基づく地域振興の実現　③健全なＪＡ運営を支える人づくり　④自己改革を進めるためのＪＡ経営基盤の充実。**

当組合の取り組みとして　**事業総利益、事業利益の必達・最終年度をむかえる経営３カ計画への取り組み・特例業務負担金の一括費用処理・ＪＡ秋田ふるさと不祥事再発防止策の確実な実行**　とし、次期経営３カ年計画の土台となるべく、生産者が安心して生産に専念できる環境を確立することを確認しました。

具体的に営農経済部門では稲作指導ＧＯＧＯ（55）運動の継続により、収量５％アップと資材コスト５％ダウンによる収益の拡大を図ることや、全農米の複数年事前契約数量の拡大や需要に応じたＪＡ直売米への取り組みといった多様な販売手法を用いて有利販売に繋げていきます。そして、信用共済部門ではＪＡとの接点のある地域住民をつなぐ金融・共済サービスの提供を基本として、２年目となる融資専任渉外と担い手支援室の連携の更なる強化や、36名のＬＡ（ライフアドバイザー）に加え、今年度より金融と共済の複合渉外であるＭＡ（マネーアドバイザー）を新設し、組合員に対してスピード感のあるサービスの提供に努めていきます。

※詳細につきましては「臨時総代会資料」をご覧ください。

臨時総代会提出議案

第１号議案　第21年度（平成30年度）事業計画策定の件

第２号議案　平成30年度経費の賦課金額、賦課の方法、徴収時期及び徴収方法の決定の件
第３号議案　平成30年度理事及び監事の報酬の件
第４号議案　定款の一部変更の件
第５号議案　定款附属書役員選任規程の一部変更の件
第６号議案　定款附属書総代選挙規定の一部変更の件
第７号議案　総代候補者推薦実施規則の一部変更の件

報告事項　不祥事に関して責任を負うべき役職員の範囲及び責任の所在について
報告事項　ＪＡ秋田ふるさと不祥事再発防止策（兼整備計画）について
報告事項　「ＪＡバンク基本方針」の変更について

附帯決議　１．決議事項中、行政庁の認可、承認等を必要とするものについて、総代会の決議の内容を変えない字句等の変更については、理事会に一任願います
２．年度途中で、事業計画の一部について軽微な変更を要するに至ったときは、理事会で当該計画の変更ができることをご承認願います

（写真説明）
①小田嶋契組合長　②③④各議案に対して活発な質問があった　⑤提出議案に対し慎重審議した　⑥議長を務めた齊藤龍平氏（十文字地区）

二十一世紀に向かって
新生JA秋田ふるさと誕生

合併記念式典・祝賀会

『人が好き　大地が好き　緑が好き』

JA秋田ふるさとの発足を祝って本所前でテープカット

二十一世紀へ向かって、活力ある農業と農家・地域の期待に応えるため、四月一日、本所事務所前で関係者約百名の見守る中行われ、新生「秋田ふるさと農業協同組合」の船出を祝いました。

JA秋田ふるさと　合併20周年特別企画

広報誌で振り返る「ふるさと」の20年

平成10年４月１日、８つのＪＡが広域合併し、
「秋田ふるさと農業協同組合」が誕生しました。

合併とともにＪＡ通信「ふるさと」も
組合員、地域のみなさまに支えられて
20周年を迎えることができました。

これからもみなさまとＪＡの「かけはし」となれるよう
新たな期待を創造していきます。

来たるべき21世紀を展望し、あらたな地域農業の発展を目指す

「ふるさと」1998年４月創刊号　より

●米の輸入関税化決定
●食料・農業・農村基本法
●コンピュータ西暦2000年問題

1998（平成10年）

４月１日、ＪＡ秋田ふるさと発足
（耕地面積１万６０００ヘクタール、組合員１４、９００人）
本店事務所（現在の横手市三枚橋）前にて開所式を行う

●広報誌「ふるさと」創刊記念号発行

●６月号
新たな取り組みに期待
水稲直播で省力・低コスト化

●７月号　園芸販売50億円必達誓う
―園芸販売50億円必達大会が開かれる―
７月、十文字町カントリーエレベーター竣工式
・参加する高齢者福祉の時代
「基幹的農業従事者のうち50％が60歳以上となっており、平成12年には62％が60歳以上となる見通し」
10月１日、「ＪＡバンク」スタート

1999（平成11年）

１月、事務所一部移転
７月、大森町、平鹿町、十文字町に次いで管内４基目となる大雄村地区カントリーエレベーターの竣工式を開催
ＪＡ平鹿果樹との合併に向け「第一回合併研究会」を開催
10月、合併に向け推進協議会設立
・コンピュータ西暦２０００年問題への取り組み
常勤役員を委員長とした「西暦２０００年問題対策検討委員会」を設置

「県内一の複合産地として、儲かる農業を実現しよう」

「ふるさと」2000年８月号園芸・果樹販売65億円必達に向けて―平成12年度　園芸・果樹生産者大会―　より

「今日の情勢の中でも農家はやっぱり米を一粒でも多く作りたいという思いが根底にあると思います。それは食料を作っているという農家としての使命感であろうかと思います」

「ふるさと」2002年10月号「米対策フォーラム」「秋田県代表者大会」より

●食糧庁を廃止
消費・安全局を新設

●米政策改革大綱決定
●改正農薬取締法
●ペイオフ解禁

●ＢＳＥ発生
●農協法改正

2000（平成12年）

4月1日、「JA秋田ふるさと」「JA平鹿果樹」が合併
7月、管内に供給する肥料や農薬、生産資材等を一極集中管理する「配送センター」竣工
9月、JA秋田ふるさとホームページ開設
11月、きのこ培養センター竣工式

2001（平成13年）

1月12日、「めんこいな」デビュー
・広報誌「ふるさと」にて「ふるさとの民話」連載開始
vol.1「鳥の海の干拓」
4月、園芸・果樹技術アドバイザー制度を導入
・販売戦略委員会を各部門に設置（米穀、園芸、果樹、畜産）

2002（平成14年）

8月26日、増田町支店オープン
●10月号
「米対策フォーラム」（JA秋田ふるさと農政対策本部主催）
「秋田県代表者大会」新たな米政策に対し要請集約

2003（平成15年）

6月、秋田駅東口にJA秋田ふるさと直売の会「ふるさと安心畑」オープン　青果物の出張販売
8月1日、旧醍醐支店にデイサービスセンター「だいごの里」誕生
12月、「安心畑」横手店オープン

2004（平成16年）

1月、十文字十五野地区、平鹿町醍醐地区に「きのこ団地」完成
2月、「JA秋田ふるさとトレーサビリティシステム」スタート
6月、農畜産物販売額200億円達成記念大会を開催
8月、台風15号、台風16号の猛威を受け、果樹落果やハウス等破損などで被害総額4億7000万円
稲作は風台風来襲により県南部「不良」
8月27日、「安心畑」イオンスーパーセンター横手南店にオープン

広報誌で振り返る
「ふるさと」の20年

「農業の深さや大切さを改めて感じました」

「ふるさと」2006年４月号「アグリリポート」より

01. JA秋田ふるさと青果・花き販売60億円達成大会

さらなる販売努力で70億円達成を誓う！

平成19年度の青果・花き販売が60億円を達成したことを記念して、３月21日、横手セントラルホテルで、60億円達成大会を開催し、生産者をはじめ、行政や市場関係者ら260人が参加しました。青果・花き販売額は、40億円を達成した平成10年から、着実に増加を続け、合併10周年の節目となる、今年度の販売額は、62億円の過去最高額を記録。特に、菌床しいたけの団地化により安定生産・出荷を確立した菌茸類の販売額の伸びは著しく、合併初年度の２・５倍、12億円に上ります。木村組合長は「長年の目標であった数字を達成でき感慨深い。これも、生産者のみなさんの努力と辛抱のたまものだ」と挨拶しました。

●ＦＡＯ世界食糧サミット　●農政改革三対策の導入　●担い手経営安定新法　●「経営所得安定対策等大綱」決定

●ＷＴＯ交渉が決裂　●水田・畑作経営所得安定対策スタート　●ペイオフ全面解禁

2005（平成17年）

1月、介護支援センター内に居宅介護支援事業所オープン

10月1日、横手平鹿地域が広域合併し、新横手市誕生

・平成17年度きのこ部会10億円突破

2006（平成18年）

●7月号広報誌「ふるさと」１００号目

6月3日、「パルシステム・秋田県南部圏食と農推進協議会」が設立。首都圏の消費者と県南地域の生産者が交流

・広報誌連載「ふるさとの民話」が「むかしっこ春秋」として書籍化

・本店営農経済部が三枚橋から旧八沢木支店に移転

2007（平成19年）

1月12日、横手中央支店、栄支店、境町支店、黒川支店、旭支店を閉鎖し、同15日に「横手総合支店」に移管

7月6日、「安心畑」平鹿総合病院前直売所オープン

●10月号

特集「あなたとわたしの「笑顔」のために」

ＪＡ秋田ふるさとショートステイほほえみ醍醐オープン

●12月号

特集「私たちのいきがい～加工の魅力と醍醐味を探る～」

・平成19年度、青果物販売額60億円突破

・平成19年度「安心畑」販売額1億円突破

3月21日、ＪＡ秋田ふるさと青果・花き販売60億円達成大会

2008（平成20年）

「ふるさと」2009年４月号より

営農経済渉外活動・ＪＡ版農業電子図書館の紹介

「ふるさと」２０１１年４月号より

「大震災『そのとき』に備えるために―。」より

「ふるさと」２０１１年１月号

「ＪＡ合併の展望を語る。」より

「いまは苦しいが、これはさらに
良い産地に構築していくためのチャンスだ」

「ふるさと」2011年５月号「農に生きる」より

●東日本大震災

●食料・農業・農村基本計画見直しで戸別所得補償モデル事業スタート

●改正農地法

2009（平成21年）

2月、ＪＡ秋田ふるさと農業法人会を設立

4月、営農経済渉外活動がスタート　ふるさと版ＴＡＣ５人の担当者を配置

●4月号　県内初！「ＪＡ版農業電子図書館」を導入

10月26日、新平鹿総合支店オープン

「旧平鹿総合支店」「醍醐出張所」「里見総合支店」を統合

11月30日、農産物総合分析センターが誕生

2010（平成22年）

4月2日、「りんごちゃんひろば」オープン

未曾有の豪雪による果樹生産量減が顕著に

りんごが前年の５割～３割程度激減

3月7日、果樹雪害状況を農林水産省担当者が視察

3月8日・10日、りんご部会雪害復旧技術講習会

3月11日、東日本大震災

3月18日、ＪＡで「りんごジュース」10、000個を提供。24日、救援米の募集を開始（ＪＡ秋田ふるさと・ＪＡおものがわで16トン

協力者2、752人、義援金2、446、852円）

3月22日、平成22年秋田県「安全安心」うまい米づくり運動＆第19回秋田県優良水稲種子生産共励会でＪＡが優秀賞を受賞

4月26日、花卉総合部会がＪＡ南三陸へ義援金

2011（平成23年）

4月1日、ＪＡおものがわと合併

2012（平成24年）

広報誌で振り返る「ふるさと」の20年

「子どもたちに夢を持ってもらえるような農業をしていきたい」

「ふるさと」2017年９月号「次代を担う農業法人」より

2018（平成30年）

●**４月１日、ＪＡ秋田ふるさと合併20周年**

2017（平成29年）

２月23日、園芸作物販売高70億円達成大会
３月27日、りんご販売金額10億円達成記念大会
４月14日、花き販売高７億円達成記念大会
●**４月号　平成30年以降の米生産**
７月22日、23日　管内豪雨
11月22日、横手市と「園芸作物振興に関する連携協定」を締結

2016（平成28年）

３月26日、大雄採種圃部会設立40周年記念式典開催
●４月号～
　広報誌表紙「農産物と子ども」をテーマに

2015（平成27年）

●**２月号　農協改革でどうなる？私たちの農業と暮らし**
６月10日、米卸をはじめ実需者と栽培契約を結んだ特定品種などを生産する「産地指定需給米生産部会」を設立

2014（平成26年）

４月15日、きのこ販売額20億円達成記念祝賀会
●**５月号　「ＴＰＰ」国会決議を守れ！**
４月28日、横手駅前本店にローンセンター開所
●**12月号　ＪＡ通信はおかげさまで２００号！**

2013（平成25年）

●**４月号　「ふるさとｅｃｏらいす」管内産１００％作付推進へ取り組みスタート**
●**７月号　わたしたちはＴＰＰに反対です**
６月12日、雄物川カントリーエレベーター竣工式

News & Topics ニュース&トピックス

April 2018

今月の組合員のみなさんの活動やＪＡの行事を、写真と記事で振り返ります。

▲「平成29年産米食味向上コンテスト」では大森地区の佐々木章さん（右）が最優秀賞に輝いた

▲全農や米卸と「平成30年以降を見据えた米生産について」をテーマに産地懇談会も開催

▲小田嶋契組合長は「増産する気構えを持ち、農地を有効活用していこう」と参加者に呼び掛けた

▲大会スローガン５項目を読み上げる柴田康孝稲作部会長

求められる米・産地づくり推進大会
多様なニーズへ対応
平成30年以降の生産見据える

ＪＡは３月８日、米産地力の強化を図るため、「求められる米・産地づくり推進大会」を横手セントラルホテルで開き、県や全農秋田県本部、米卸、生産者など200人が参加しました。

同大会では生産者に平成29年産米の集荷並びに品質状況報告や平成30年度のＪＡ取組方針について説明。平成29年産米は民間流通米の集荷率が94.6％。５月下旬から６月下旬にかけて低温で推移し、初期生育が遅れたことで登熟が緩慢になり、収量が減少しましたが、カメムシの被害粒が減少したことで１等米比率は95.5％と平成28年産より3.6ポイント上昇しました。

ＪＡは、平成30年度もこれまで独自に取り組んできた「ふるさとｅｃｏらいす」や特別栽培米など、こだわりのある米生産を継続。また、多様なニーズへの対応を図り、消費地や米卸の信頼を得られる「求められる米・産地づくり」を目指して産地力を強化する方向性の確立を基本方針として掲げました。

また、これまで築き上げた米卸や実需との結び付きをより強固にし、①売り切る米・産地づくりの実践、②多様な販売手法（販売契約）への取り組み、③生産者との営農計画の取りまとめなど生産目標数量配分廃止の転換期をチャンスと捉えた米生産の方策を打ち立てました。

園芸生産者大会
販売額80億円目指し 生産振興策を講じる

ＪＡは３月14日、横手セントラルホテルで園芸生産者大会を開き、全国17の取引市場担当者や生産者など210人が参加しました。同大会では平成29年度の販売実績報告とＪＡ産品の評価などを確認しました。

平成29年度園芸作物は年間を通じた度重なる異常気象により、販売重量が26,474トン（平成28年度対比92.2％）、販売額は65億2600万円（同89.3％）になる見込みとなりました。これらを受け、ＪＡは天候に左右されない栽培環境の整備を進めるなど生産振興策を打ち立てました。さらに、全重点品目での予約相対取引を強化し、生産者手取りの最大化を目指します。また、新規就農者の育成支援体制を行政と共に構築。2020年度までに園芸作物販売目標額を80億円と設定し、達成に向けた取り組みを加速させることを誓いました。

▲品質向上と安定生産を図るため関係機関と連携することを確認した参加者

▲大会スローガンを読み上げるＪＡ園芸振興連絡協議会の佐藤孝弘会長

▲「平成30年度の生産も頑張ろう」とあいさつしたりんご部会の佐藤貢部会長（左）

▲有利販売に向け、市場関係者との意見交換も行い、平成30年度の販売強化に努めることを確認

りんご部会実績検討会
栽培と販売の 基本方針固める

りんご部会は３月15日、よこてシャイニーパレスで販売実績検討会を開き、市場担当者や部会員ら37人が参加しました。

平成29年度産のリンゴについて、栽培面では花の満開日以降に降雨が続いたことで授粉環境に恵まれず、生育期間は低温や日照不足に見舞われ、強風被害も受けるなどして集荷実績は約31万箱（１箱18キロ、梨含む）（平成28年度対比93.5％）となりました。販売額では11億5000万円（同92％）と数値を落としましたが、各市場では単価高で推移しました。これを受け、平成30年度は生産量回復に取り組み、積極的に新改植や優良系統への品種更新を行うほか、人工授粉の励行、樹上選果と荒選果をさらに強化するなど栽培基本方針を確認しました。

ねぎ部会総会と販売実績検討会
出荷量減も高品質維持
栽培技術向上へ部会一丸

ねぎ部会は３月16日、平鹿支店で通常総会と販売実績検討会を開き、部会員や市場関係者など33人が参加しました。

平成29年度の生育状況は定植後の低温や７月22日、23日の豪雨の影響により生育不良が目立ち細物が多く、また11月19日以降の降雪と積雪の影響で作付面積の１割となる1.6㌶が収穫できない事態となりました。出荷量は平成28年度対比94.4％となる282.69㌧と落ち込みました。

市場担当者からは、異常気象の中での高品質生産を評価。「今後も安定した質と量の確保をお願いする」との声が多く上がりました。

伊藤傳悦副部会長は「異常気象の中、数量を伸ばした部員もいる。栽培技術を高め合い、全員が喜ぶ出来秋を目指そう」と呼び掛けました。

▲栽培技術の向上を呼び掛ける伊藤傳悦副部会長

VOICE

天候の急変や異常気象などがありながらも、平成29年度は作柄が良く仕上がりも良好でした。平成30年度に向けた課題としては、人材の確保が急務となっています。適期収穫できるよう、人材の雇用に取り組んでいきたいです。

平成30年度新副部会長　五十嵐大さん

▲職員を代表して藤島尚未（なおみ）さんが登壇し、役職員全員でＪＡ綱領の唱和も行った

▲平成30年度新採用職員が壇上で意気込みを語った
（P16-P17新採用職員紹介も合わせてご覧ください）

第18回ＪＡ役職員大会
地域での存在意義と経営健全化を考える

ＪＡは３月10日、横手市民会館で第18回役職員大会を開き、ＪＡ役職員584人が参加しました。ＪＡの地域における社会責任やさらなる経営健全化について考えることを目的として毎年開催しています。

大会では平成30年度の新採用職員紹介や㈱農林中金アカデミー営業戦略研究所の小出豊氏を講師に「役職員コンプライアンス研修会～不祥事ゼロを目指して～」と題した研修会を行いました。

小田嶋契組合長は「ＪＡは地域にとって大きな存在であり、組合員と役職員の信頼関係があってこそ成り立つ。全員一丸となって頑張ろう」と役職員に呼び掛け、役職員一同士気を高めました。

営農指導養成講座
専任指導員が講師に 指導の質向上目指す

ＪＡは３月15日と23日の両日、平鹿支店で園芸作物営農指導養成講座を開き、ＪＡの営農経済担当職員33人が参加しました。営農指導の質の向上や窓口での指導購買の充実など組合員との一層の結びつきの強化を図ることを目的として毎年実施しています。

講座では、園芸課の専任指導員が講師となり、スイカやアスパラガス、トマトなど管内で作付の多い品目を中心に栽培や実体験に基づいた指導のポイント、農薬の適切な使用方法について解説。講座に参加した職員は「農家の皆さんに的確なアドバイスができるように頑張りたい」と抱負を語りました。

▲実務に精通した専任指導員が講師を務め、指導のポイントを解説した

▲参加した職員は病害虫なども図で確認

▲参加者は講師の説明に熱心に耳を傾けていた

VOICE

インゲンは、東北地方の一大産地である福島県で生産者の高齢化により年々出荷量が減少しています。そのため市場からの要望も多く、価格も高単価で推移しています。特に出荷量が落ち込む秋穫り（収穫９月下旬～）にも挑戦していただきたいです。

園芸課　菅原大専任指導員

新規作付説明会と栽培講習会
作付規模拡大へ 栽培ポイント学ぶ

ＪＡは３月28日、平鹿支店でつるなしインゲンやトウモロコシ、キャベツの新規作付説明会と栽培講習会を開きました。出荷を前提とした作付規模の拡大を図ることを目的としており、生産者や種苗会社の担当者など66人が参加しました。つるなしインゲンの栽培講習会ではタキイ種苗㈱東北支店の尾﨑俊喜氏が講師となり、つるなしインゲン「恋みどり」の品種特性や栽培のポイントについて説明。初期の地温確保のために播種予定日から逆算し、一週間前までにはマルチ張りを行うことや、湿害に弱い為一度に多量かん水しないことなど詳しく解説しました。参加者の一人は「まずは少ない面積から、気軽に挑戦したい」と意気込みを語りました。

■金沢営農センター

高橋（たかはし） 尚希（なおき）

■果樹課

黒澤（くろさわ） 直人（なおと）

■米穀課

飛澤（とびさわ） 大地（だいち）

■担い手支援室

木村（きむら） 友晴（ともはる）

■横手営農センター

湊谷（みなとや） 正和（まさかず）

■横手支店

髙橋（たかはし） 璃緒（りお）

■横手支店

下タ村（したむら） 真穂（しほ）

■横手支店

畠山（はたけやま） 幸大（こうだい）

■平鹿営農センター

高橋（たかはし） 大樹（ひろき）

■平鹿支店

柴田（しばた） 花歩（かほ）

■平鹿支店

柴田（しばた） 笑衣（えみい）

■横手営農センター

立谷（たちや） 奈々（なな）

平成30年度

新採用職員紹介

座右の銘やモットーを書いてもらいました！

■大雄支店

むとう　わかな
武藤 新奈

■雄物川営農センター

いとう　もとき
伊藤 幹毅

■雄物川支店

たかはし　みほ
高橋 美穂

■平鹿営農センター

あかがわ　みさと
赤川 未里

■十文字支店

たかはし　かずあき
高橋 一彰

■大森営農センター

たんば　としかず
丹波 俊和

■大森支店

さなだ　ちか
眞田 知佳

■大雄支店

かがや　みき
加賀谷 未季

笑顔と元気を
忘れず
頑張ります。
よろしく
お願いします！

■増田支店

なかの　りこ
中野 理子

■十文字営農センター

いとう　こうたろう
伊藤 浩太郎

■十文字支店

ささき　ゆうさ
佐々木 悠紗

わたしの川柳

今月のテーマ：『春』

●今月の最優秀作品

ハックション
くしゃみが告げる
春が来た

P.N 大森マダムさん（大森）

●優秀作品

ふきのとう
春愛でるより
先ず味見

P.N パンドラマニさん（十文字）

除雪後の
水仙の芽に
春が見え

佐々木　幸一郎さん（大森）

今日もまた
春待つ庭の
雪寄する

大和谷　タエさん（雄物川）

桜咲く
孫の笑顔に
春到来

松井　タエ子さん（横手）

応募作品数…25作品

■春の到来を告げるものは色々ありますが、雪解けが進み暖かくなると飛び出す「花粉」。私もくしゃみが止まらなくなります。

楽しい川柳作品をお待ちしております。最優秀作品には、素敵な記念品を進呈！
【５月号のテーマ】「**青**」　【応募方法】ハガキに川柳作品（パズルにご応募の方はその答えも）のほか、次頁下段の応募方法①～⑥をご記入の上、ご応募ください【応募先】〒013-0036 横手市駅前町6-22 総務課　広報担当【応募締切】４月26日㈭当日消印有効
<作品をご応募いただく皆さまへ>　掲載された作品を横手かまくらFMにおいて毎月第４水曜日午後12時15分頃より（変更あり）ご紹介させていただいております。作品と投稿者名（地区は除く）をご紹介しますので、ペンネームでのご紹介をご希望の方は必ず記載してください

おたより

●「わたしの川柳」ですが、俳句なのか川柳なのかと思う作品が多いと思うのは私だけでしょうか…？

／横手　M・Iさん（68）

いい質問ですね！季語の有無で判断される場合が多いのですが、俳句の中にも自由律俳句や無季俳句など、ジャンルも幅広く川柳と俳句の違いを明確に区別することは非常に難しいのです。自由に詠んでいただき、気軽に送っていただきたいと考えていますので、ここでは川柳として紹介させていただいております。

●特集の女性部冬季活動の記事を読み、横手市の色んな地域の女性たちが笑顔で活動している姿を見て、地域交流もいいなぁと思いました。

／金沢　M・Kさん（32）

金沢地区には「自まんこコンクール」や「食を楽しむ集い」といったイベントがありますので、気軽に参加してみてくださいね♪

●５Ｐの、「みんなに会える冬が待ち遠しくて」のフレーズを読んだとき、心がパーッと明るくなりました。私の冬は毎日毎日雪かき。冬のイメージは灰色でした。でも今年は冬が待ち遠しいくらいの何かを探したいです。　／平鹿　S・Oさん（69）

同じ時間を過ごすのならば、楽しい方がいいですよね！ピンチはチャンス、ではないですが、逆転の発想で毎日を明るく過ごせる何かを探してみてください♪

●高校生が自分たちで栽培し、ツルムラサキの色素を使用したところなど、発想が面白く、出来たクッキーも食べてみたくなる様な可愛さがありました。

／横手　M・Iさん（64）

高校生たちの、商品にかける熱い思いやこだわりを感じますね♪

●タネ袋に播種から収穫までの日数や「ＹＲ」「ＣＲ」など、病気に対するヒントがあるという事を知り、参考になりました。

／R・Oさん（69）

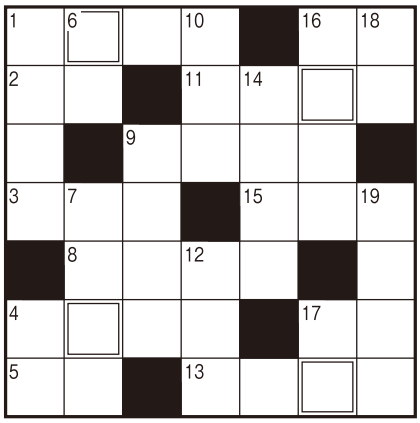
あの小さい袋にはタネだけでなく情報もたくさん詰め込まれていたのだなと私も驚きました。値段だけでなく、表示もしっかり見よう…と心に誓いました。

Wanted!

管内の風景写真や自慢の逸品、珍品野菜など、みなさんの「作品」を募集しています。ご応募は当ＪＡホームページにある専用フォームからお寄せ下さい。（携帯からは、以下アドレスへ）掲載者には、素敵なプレゼントを差し上げます。
メール【wg-koho@akita-furusato.or.jp】

クロスワードパズル

イネ科に属します



【解き方】全部の問題を解き二重枠の文字を並べ替えると一つの言葉ができます。それが答えです。

タテのカギ

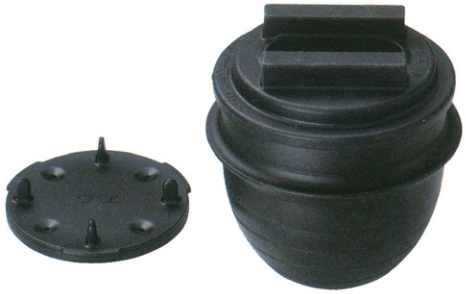
1　稲の種をまいて育てる場所
4　ミツバやパクチーは――科の植物です
6　進物に付けます
7　煮ても生でもおろしてもおいしい野菜
9　寒冷の反対語
10　この箱の――は何か当ててみて！
12　給与から税金や社会保険料などを引いた残り
14　日本で作った物のこと
16　床の間に飾る物の一つ
17　かまぼこの土台になります
18　――は身を助ける
19　工事が終わって建築物が出来上がること

ヨコのカギ

1　春の野に咲く黄色い花
2　タカに似た大きな鳥
3　『考える人』を作った彫刻家
4　試合中のボクサーに指示を出したり手当てをしたり
5　肥料の三要素は窒素、―酸、カリウムです
8　足の速い人のこと。神様の名前です
9　神社や寺で引きます
11　went は go の――です
13　映像が――的に見える３Ｄ映画
15　春の山を薄いピンク色に染める花
16　光が当たると反対側にできます
17　旧国名の一つ。現在の三重県の大部分

米味膳（ブラック）
３名さまにプレゼント！

電子レンジでふっくらごはん！
0.5合～１合炊きが
おいしくできます！



●応募方法　※川柳もこちら！

【応募方法】
ハガキに ①答え ②住所 ③氏名（当選発表時にペンネームが必要な方は別途記載してください） ④年齢 ⑤電話番号 ⑥当誌を受け取った場所 ⑦今月の好きな記事とその理由 または、当誌やJAへのご感想をご記入の上、下記までご応募ください。なお、お寄せ頂いたご意見は「お手紙」のコーナーにてご回答させて頂く場合がございます。（①～⑦の項目は必須となります）
【応募先】
〒013-0036横手市駅前町6-22 JA秋田ふるさと総務課・広報担当（※応募はホームページからでもOK。トップページの「みなさんの声と作品をお寄せ下さい！」バナーをクリック！）
【締　切】
４月26日（木）当日消印有効

1ヒ	5ナ	9ニ	ン	14ギ	18ヨ	ウ
■	6カ	ユ	■	15ム	ギ	■
2ト	ビ	ウ	12オ	■	19リ	21ス
ウ	■	10シ	ヤ	16ク	■	イ
3ジ	7ヨ	■	13コ	ン	20パ	ス
■	8ネ	11ジ	■	17セ	ン	■
4ハ	ツ	カ	ダ	イ	コ	ン

■3月号の答え／ネコヤナギ
■3月号の当選者／
P.N. ＭＩＥさん
小野孝子さん
佐々木幸一郎さん
■応募総数／30通
■正解者数／30通

【組合員のみなさまへ】

ＪＡ組合員資格 のご確認をお願いいたします。

組合員資格等（資格・氏名・住所・電話番号）に変動が生じた場合は
定款第14条の定めるところにより、速やかに書面で届出いただくことになっております。
組合員資格等に変動がございましたら、大変お手数をおかけしますが、
最寄りのＪＡ各支店において変更のお手続きをいただきますようお願いいたします。

ＪＡ組合員資格チェック項目 □

いずれかに該当する方が正組合員資格を有する方です。

□ ３ａ以上の土地を耕作する農業を営む個人で、
その住所または経営にかかる土地や施設が当ＪＡ管内にある

□ １年のうち60日以上農業に従事する個人で、
その住所または経営にかかる土地や施設が当ＪＡ管内にある

□ 農業を営む法人（その常時使用する従業員の数が300人を超え、
かつ、資本の額または出資の総額が３億円を超える法人を除く）であって、
その事務所または経営にかかる土地が当ＪＡ管内にある

上記のいずれかの要件を満たしている場合 ➡ **「正組合員」へ**

上記のいずれにも該当しない場合 ➡ **「准組合員」へ**

資格変更の手続きが必要となる可能性があります。
詳細は最寄りのＪＡ各支店までお問い合わせください。
また、組合員の相続可能手続きは相続開始後**60日以内**にお手続きくださいますようお願いします。

ご存じですか？

ＪＡ組合員は厚生連病院での入院料が割引になります。

入院割引の対象者は

社保・国保の被保険者または被扶養者でその療養の給付に要する費用の**３割を負担する**
正組合員およびその同居する家族、准組合員本人

※ただし、高齢者医療、第三者行為、正常分娩（保険適用部分は対象）、公費負担、付加給付のある方は割引対象外となります。

厚生連病院の入院割引をご利用なさる際には「農協組合員証」の提示が必要になります。

「農協組合員証」発行は、最寄りの支店・出張所にて受け付けております。
お気軽にお立ち寄りください。

Information　ＪＡをご利用のみなさまへ

機構改革に伴う本店事業所の番号変更のお知らせ

平成30年3月1日からの機構改革に伴い、本店事業所の電話番号が一部変更となりました。なお、営農経済部、各支店・営農センター、各選果場・出荷所については従来通りとなっております。

■本店　　部分は変更のあった部署

	ＴＥＬ	ＦＡＸ
代表	35-2630	
監査室	35-2643	35-2657
リスク管理室	35-2636	35-2701
担い手支援室	35-2632	35-2699
企画管理課	35-2660	35-2701
債権管理審査課	35-2664	35-2723
総務課	35-2634	35-2701
[旅行センター]	35-2681	35-2707
[よこてシャイニーパレス]	32-4141	32-7983
人事課	35-2638	35-2701
金融課	35-2653	35-2723
[本店１階窓口]	32-3406	38-8602
[平鹿病院出張所]	36-1417	36-1401
融資課	35-2662	35-2723
[ローンセンター]	38-8601	38-8602
共済課	35-2661	35-2704
事故相談課	35-2669	35-2704

退職者のお知らせ

下記の職員が退職いたしました。
長い間お世話になりました。【３月31日付】

嘱託職員として再雇用

山中　博志	総務企画部付	共済課
土谷　　薫	総務企画部付	十文字支店
髙橋　国広	総務企画部付	大雄営農センター
小原　源江	総務企画部付	担い手支援室
佐藤　専一	総務企画部付	農業機械課
小西　　勇	総務企画部付	総務企画部
川越　正利	総務企画部付	福祉部
佐藤　尚史	総務企画部付	雄物川支店

木村　　均	総務企画部付	米穀課
佐々木康明	総務企画部付	大森営農センター
佐藤　和美	総務企画部付	平鹿営農センター
小松田　智	総務企画部付	営農経済部
佐々木礼子	総務企画部付	増田支店
松井　良子	総務企画部付	横手支店
西村　正光	総務企画部付	㈱ふるさとオートランド出向
糸谷　孝信	㈱ふるさと燃料サービスに転籍	
福岡　俊幸	㈱ふるさと葬祭アグレムに転籍	
大庭　敏昭	総務企画部付	総務課
佐野　宏二	総務企画部付	大森支店
矢野　信雄	総務企画部付	十文字支店
佐々木浩樹	総務企画部付	増田支店
大塚　賢昭	総務企画部付	雄物川営農センター
藤田　裕人	総務企画部付	大雄支店
藤田　沙織	総務企画部付	
佐々木幸吉	総務企画部付	大森営農センター
高橋　惇也	総務企画部付	農業機械課
小野つかさ	総務企画部付	共済課
木村　忠晃	総務企画部付	雄物川営農センター

ミスフレッシュ秋田を大募集

秋田の青果物をPRしてみませんか？

応募は　**４月24日（火）**　必着
【詳細】全農あきたホームページ
http://www.ak.zennoh.or.jp/
【お問い合わせ】あきた園芸戦略対策協議会
TEL 018-864-2495

春の農作業安全月間のお知らせ

職員の人事異動のお知らせ

下記職員の人事異動を行いましたのでお知らせいたします。
【３月14日付】
◆雄物川営農センター　佐藤邦子（資材課）
【４月１日付】
◆雄物川支店　鈴木綾子　（総務部付）

理事会だより

【臨時理事会】
平成30年３月９日
■定款の一部変更について
■第21年度（平成30年度）事業計画の策定について

【第12回定例理事会】
平成30年３月27日
■平成30年度固定資産グルーピングの変更及び業務外固定資産個別処理方針について
■臨時総代会並びに提出議案について

理事会メモ

議案第７号
「平成30年度水稲育苗センター利用料金の設定について」において
　前年度と同額とすることが承認されました

区分	配達（税込）	自己取（税込）
出荷苗	525円	482円
緑化苗	547円	504円
硬化苗	699円	656円

葬儀に関する不安や悩みはございませんか？
お葬式・法要の
無料事前相談実施中
㈱ふるさと葬祭アグレム
TEL/0182-52-3930
ご家庭の精神的・経済的なご負担を軽減したり、少しでも安心して頂くために、どんな些細なことでもお気軽にご相談ください。
訪問相談も承っております。
手順はとても簡単です。
①まずは52-3930までお電話ください。
②「訪問相談希望です」とお伝えください。
※訪問日時を決めます。
③お約束の日時にスタッフがお伺いします。
葬儀の準備には何が必要なの？
葬儀の事が何もわからない
故人の想いを実現するには？
葬儀の費用って実際いくら必要なの？
HP／https://ja-sousai-agulemu.com/ アグレム 検索

第60回全国リンゴ研究大会

　全国のリンゴ生産者及び関係者が一堂に会し、産地間の交流を深めるとともに高品質リンゴ生産による経営の安定と活力ある産地づくりを目指すことを目的とした標記大会を開催します。
　皆様のご参加をお待ちしております。

研究大会　平成30年７月26日（木）13：00～17：15
横手市民会館

■記念講演　演題「知らなきゃ一生後悔する！リンゴ生産者の知らないフルーツの世界」
講師：国際フルーツ協会代表　中野瑞樹氏

■基調講演　演題「果樹の栽培技術開発の動向と今後のりんご経営の展望について」
講師：国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門
品種育成研究領域長　別所英男氏

■事例発表　テーマ「新技術導入で変わる我が産地」

交流会　平成30年７月26日（木）18：30～21：00
横手セントラルホテル

産地視察　平成30年７月27日（金）８：00～14：00

■視察地
・横手市平鹿町　斉藤新作氏園地
・横手市平鹿町　佐藤謙一氏園地
・湯沢市駒形町　山下久悦氏園地
・秋田県果樹試験場

【申込締切】　平成30年５月25日（金）
【申込・お問い合わせ先】（一社）秋田県果樹協会　TEL0182-25-4201

ふるさとの民話

猿と雉の寄合田

●再話／中川文子　●画／佐々木愉美子

昔むがし、猿が雉の所さ来て「雉、雉。雪っこ解げだら、二人して寄合田っこさねゃが」って誘ったけど。雉、喜んで「良ぇ話っこだなや。餅米植えで、餅つぎするべ」って、小ったこい沢田っこ五枚、作ゃるごどにしたけど。

したども、雪っこ消で、何処の家でも田堀り始めだたて、猿がら連絡っこねゃがったんだど。雉、猿の家さ行って、「猿、猿。人達、皆んな田堀りしてらど。空按配も良ぇし、俺達も田堀りさねゃが」って声かけだば、「嚊下嚊下でして行げもせぬ」って、横になったまんま起ぎねゃけど。雉、しかだねゃがら、「キャキャンコロコロ、キャキャンコロコロ」って鳴きながら、一人して田堀りしたど。

水張ったなで、今度な畦畔塗りさねゃばでげねゃ。雉、まだ猿の家さ行って「猿、猿。畦畔塗りするべ」って言ったば、「嚊下嚊下でして行げもせぬ」って、起ぎでこねゃけど。

雉、まだ、「キャキャンコロコロ、キャキャンコロコロ」って鳴きながら、「ペタペタペタペタ」ど一人して畦畔塗ったど。

猿、代掻も田植も寝でばしえるなで、雉、全部一人して仕上したど。

それがらも、雉、一人して、田、仕付げだど。

そうして秋になったば、大層た良ぇ稲っこ実ったけど。雉、やっぱり一人して稲刈りして稲架掛げしたど。良ぇ塩梅に干せだ頃、猿、やって来たけど。

猿、「さあ、分げるべ」って言って「雉一把、猿二把。雉一把、猿二把」って分げて、自分ばし分げ前っこ沢山取って、どんどど行ってしまったけど。

刈上げの節句きて、雉一人して餅つぎしてだば、まだ猿きて、「餅米、全部食ってしまった。お前の分もよごせ」って言うけど。「これなば、神様さ上げる餅だがらけられねゃ」って言ったば、神様さ上げる餅ばし残して、奪取して行ってしまったけど。雉、「良がった。神様さ上げる餅だげは残った」って喜んで、田の神様さ上げだけど。

天空がら、その一部始終見でだ神様、「何ぇてかぇて狡え猿だ」って激怒いで、顔ど尻ど真っ赤にしてしまったんだど。猿、皆んなの笑い者になってしまったけど。

そうして、雉どごば「我慢強ぇぐ頑張った」って褒めで、綺麗だ羽ど長ぎゃ尻尾けだけど。皆んなに褒められながら、方々飛び回って見物したんだど。

とっぴんぱらりのぷう

編集後記

今月号は特別企画として20年分の広報誌を凝縮。広報誌は「ふるさと」の史料。伝えきれない記事が山ほどありましたが、またそれは追々。記念すべき創刊号表紙でほほ笑むピカピカの小学1年生は、今や27歳に。自分も彼らと同い年。20年の歳月を感じさせられます。（き）

今月はお知らせです。長年皆さまに親しまれてきた「ふるさとの民話」ですが、ついに中川文子さんご本人による読み聞かせに対応致しました！パソコンをお持ちの方はJA秋田ふるさとのホームページから特設バナーをクリックしていただくことで音声を楽しむことができます。また、スマートフォンをお持ちの方はQRコードを読み取ることで音声が楽しめるページまで簡単に移動できます。今年度も皆さまに楽しんでいただける広報誌作りに取り組んでまいります。（み）

JAの概況 Situation

組合員数	17,644人
（正組合員）	12,880人
（准組合員）	4,764人
貯金	1069億1918万円
貸付金	323億7103万円
購買品供給高	48億1433万円
販売品販売高	168億5204万円
共済保有高（保障）	4105億6181万円

（2018年2月末現在）

VEGETABLE OIL INK

JA通信 ふるさと
発　行／秋田ふるさと農業協同組合
企画・編集／総務課 〒013-0036秋田県横手市駅前町6番22号
印　刷／㈱全農ビジネスサポート秋田支店
TEL／0182-35-2630
FAX／0182-35-2701
E-mail／fu.staff@akita-furusato.or.jp

秋田ふるさと　検索
検索サイトでJAのホームページに簡単アクセス！